

2016年5月22日（日） クマさん会20周年記念・佐渡ツアーー3日目

～Report by 能勢征児・邦子(Photo By 参加者の皆さん)～

今日は、佐渡ツアー最終日、佐渡奉行所跡を見学、その後、二手に分かれて、佐渡金山・宋太夫抗・大切山抗の見学と相川町歩きを行う。再び合流して、佐渡伝説館、花の木で昼食後、宿根木集落を散策してから小木でたらい舟に乗る観光三昧の日である。

その後、フェリーで直江津港に出て、上越妙高から北陸新幹線で東京に帰ることになっている。

民宿「七浦荘」は24時間入浴可能であり、全員、4時頃起き出して一風呂浴びてサッパリした。



女性陣は、最近、珍しくなった燕が飛び交う中、朝の散歩に出た。

シャリンバイ、グンバイヒルガオが咲く美しい海岸を歩いているとアメフラシを発見、潮風が心地よかったです。



シャリンバイ

グンバイヒルガオ

つゆ草？

アメフラシを発見



大広間で朝食、佐渡のお米が美味しいでおかわりが進む。民宿から「佐渡コシヒカリ」100gの御土産を頂いた。



8：00 昨日の疲れもすっかり癒えて、佐渡の観光に向かう。



8：20 佐渡相川にある国史跡・佐渡奉行所跡に到着。

佐渡金山は、かつては金銀の産出量世界一を誇り、昭和に至るまで日本の経済を支えていたと云われている。
佐渡金銀山 四百年の歴史を体験する。

クマさん会から派遣した美人バス
ガイドの小野寺さん！



直径 50m のシックナー、混濁液
から金銀を選鉱するそうだ。



行政の仕事が行われた御役所



お奉行の馬の練習馬場。

徳川幕府の財政を支えた佐渡金銀山を管理していた奉行所、奉行所内の「御役所」と「白州」「寄勝場」等の工場を見学後、御役所内にある御白州で身に覚えのある人は、各人、懺悔を行った。



御白州の前で、記念写真を一枚、皆さん神妙な顔をしている。



○○過ぎの刑で懺悔



遊び過ぎの刑で懺悔

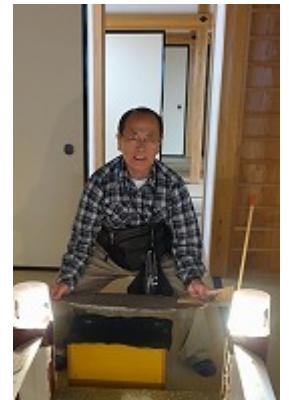


特に懺悔することはないと思
笑っている能勢夫妻。



ねこ流し

鉱石を石磨で粉にする。比重の重い金銀は木綿の布目に流す。



鉱石を粉々にして金銀を取り出す寄勝場(よせせりば)は、当時の姿を忠実に復元しているそうだ。
右の写真は、金銀製錬に利用された40Kの鉛板を持ち上げる雄さん、結構な重さがあった。



9:00 佐渡奉行所跡を案内してくれた説明員の方と御役所前で記念写真



閉所恐怖症の布目さんと行動を共にする小山さんは、
佐渡金山を諦めて、ここから別行動を取り、ふれあい
ガイドさんの案内で相川町歩きに向かう。



9:15 マイクロバスで佐渡金山到着、
国指定史跡「宋太夫抗」を見学する。

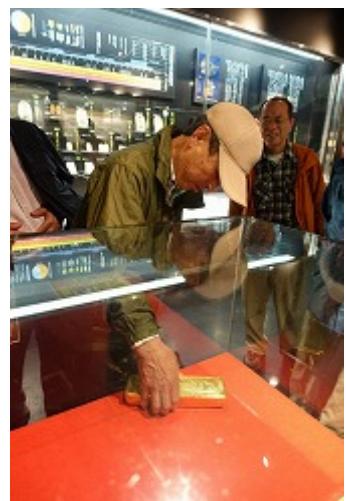


江戸時代初期に開発された
手掘り坑道・宋太夫坑を見学、



採掘、保抗、測量などの構内労働
を等身大で再現している。

坑道の中で「早く外に出て酒を飲みてえ。馴染みの女にも会いてえ なあ。」などの台詞を喋る人形が
動いていた。



資料館の中で、プラケースから 12.5kg の金塊取り出しにチャレンジしたが、失敗に終わる。

既に 1921 人が成功しているようだ。

You Tube に取出し方が掲載されていたが、中島さんが一番有望な掴み方をしている。



佐渡金山発見の端緒となった秘境、江戸時代専門コースと云われる「大切山坑」ガイド付き探検ツアーに参加、14年の歳月をかけて約400mの坑道が開削され、世界遺産暫定リストに登録されているそうだ。



10:10 坑道内は、真っ暗で天井が低く、道はぬかるんでいるので、長靴、ヘルメット、ビニール合羽を着て、長靴を履き懐中電灯を持って歩くことになる。

夏でも気温が低く、長袖のシャツを着ないと寒い。



二本の坑道の間隔が狭く発破での開削は不可能であり、手彫り採掘でなければ残すことは出来なかつたと云う。



11：00 大切山坑の1時間の探検ツアーを終えて、
ガイドさんと一緒に写真撮影

布目さんと小山さんは、佐渡金山見学コースと別行動を取り、相川町歩きをしているが、
以下、布目さんがそのレポートを纏めてくれました。



鉱石を運び出すトロッコの駅廃舎



石積アーチ橋、当時の技術を知る
貴重な有形文化財



鉱石の粉碎工場
この工場は金の含有率が低い
石のみ集まる。



無宿人の墓への旧道を歩く。
全盛期の住宅跡などの名残が数々あった。
無宿人の流刑人のことで島内では普通の暮らしができ
技術などを伝授 came out.



妙法山の流刑人無縁仏



鉱山に向かって道遊の割戸山。



旧道を出たところで、ウォーキングラリーの子供たちに出会う。



廃物になった鉱石粉碎用の石臼を再利用



佐渡奉行、本目隼人の墓地にて



佐渡の無名異焼、個人のギャラリー
なんと!ぐい呑みばかり



時鐘と鐘楼前にて



京町茶屋、海の見える丘で
シホンケーキが美味しいとか



11：30 相川町歩き終了、相川ふれあいガイドの
斎藤本恭さん、お世話になりました。



12：00 再度、布目さん、小山さんが合流。
佐渡歴史伝説館で佐渡の歴史や伝説を等身大のロボット
が判り易く再現紹介してくれた。

佐渡に配流された精巧なハイテクロボの順徳天皇、日蓮
上人、世阿弥に会える。

「世阿弥・雨乞いの舞」のロボットは、約 2000 万円
かかったそうだ。能面を変えるところが見事だった。
ここは佐渡に島流しされた哀しい歴史満載だった。



佐渡でお生まれになった
順徳天皇の第一皇女



佐渡流罪になり処刑されそうに
なった日蓮上人



語り部の酔っ払いのおじいちゃん・
おばあちゃん



12：30 佐渡歴史伝説館を出て、再びマイクロバス小野寺
号で食事処「花の木」へ向かう。



夫婦岩



人面岩



流石にお疲れの中島さん



13：10 古民家造りの「花の木」に到着、しっとりとした落着いた食事処であった。

一枚板のテーブルに美味しいそうな食事が並ぶ。女性陣はテーブルの下に足が入らず難儀していた。

再び小野寺号で北前船の寄港地として栄えた港町
小木に近い宿根木に向かう。



14：00 千石船の里・宿根木に到着、
宿根木の集落を散策する。



世捨て小路、近くで産出する石を敷きつめた道は
中央が磨り減っており歴史を感じさせる。

2016

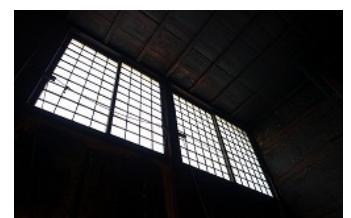


公開民家「清九郎」



公開民家「清九郎」家の前で吉松さんと中島さん

2016 05 22



築200年という古い家で、当時の面影がある。外観は質実な印象だが、内部は檜や一本杉の漆塗りの豪華な造りになっている。



岩山の下が土蔵になっている。



「伊三郎」

軒下のもちおくりに扇形の飾りを施し、姓の「石」の字を彫り込んだ意匠は生活を楽しむゆとりを持ち始めたことがうかがえる。



「清九郎」家のくぐり戸に入った土間は、広くゆったりとして、それに続く「おまえ」(居間)は囲炉裏を中心に広々としている。



JR 東日本の CM「大人になつたらしたいこと」で吉永小百合さんの宿根木散策編が放映されている。



三角屋前で雄さん、文さん、吉松さん、能勢の4人



三角屋は宿根木にある伝統的建造物の一つであり、150 年前の建造と云われている。



小野寺さん、能勢邦子さん、中島さん、布目さん、岡部さん、小山さんは、三角屋前で吉永小百合さんと同じポーズで、撮影。





宿根木海岸に行き、いよいよ弥彦の
たらい舟に乗船する。
たらい舟は、磯際での漁にも最適な
ようだ。



御影石で造られた「舟つなぎ石」



たらい舟は、1舟に船頭さんと
3人が定員で、小野寺さんは、
カメラマンになった。
それとも怖いのかな？



3舟に分かれて9人が、たらい舟を楽しんだ。地元では、たらい舟を「はんぎり」と云う。



たらい舟を最後に3日間の佐渡ツアーも終わりとなり、直江津に向けてフェリーに乗り込む。



フェリーあかね



大型で快適



昨日登った金北山が遠くに
見える。



フェリーから新潟焼山から白い噴煙が真直ぐ吹きだしているのが見えた。

調べてみると5月16日に小噴火したらしい。



18：10 直江津港でフェリーを下船、その後シャトルバスに乗り 18：50 上越妙高駅到着、北陸新幹線は全員初めて、上越妙高駅 19：13 発「はくたか 574 号」を待つ。東京まで僅か 2 時間、早くなつたものだ。

この時間では、駅弁は売切れているのではと心配したが、やはり殆ど売切れていた。最後の「さけめし」を雄さんがゲット、他の人は、やむなく構内のコンビニで残り物の弁当を購入した。



最後の「さけめし」

二人で「ますゞし」



皆さん、ビールを飲む時と弁当を食べる時は幸せそうな顔ですね。
良く見ると全員、ますゞしを食べている。



早くもビールで乾杯



三人は、大宮駅で下車



二人は上野駅で下車



文さん他、残る五人は東京駅で下車

今回の佐渡ツアーは、天気にも恵まれ、小野寺さんの素晴らしい企画により、沢山の花々と盛り沢山の観光で実に楽しい3日間でした。

これでクマさん会20周年記念行事「佐渡ツアー」も無事に終了しました。

参加者の皆さん、お疲れ様でした。